

長野県 農業生産法人(有)トップリバー

JGAP



OGAP手法導入のきっかけ、経緯

量販店及び生協との契約販売の中で、GAP手法の導入を勧められたことがきっかけ。その後JGAP導入指導員に合格した従業員の下で、JGAP認証取得に向け農場整備を開始し、社内に発足させたGAP委員会を中心に農場管理マニュアルを作成。

○実践者からのコメント

- ・ これまでは、先輩から後輩へ口頭で伝えてきたことを、文書化することで、全員が同じルールの下で野菜の生産をしています。
- ・ ほとんどがこれまで実践していたことでしたので、GAP手法導入が大きな負担になることはありませんでした。
- ・ JGAP認証取得の条件を満たす肥料保管庫の設置や、予冷庫内の改修工事などに出費がありましたが、安全性を確保するために必要な投資だったと思います。
- ・ 「私たちの野菜は安全です」とアピールできるひとつのツールになっていると思います。

OGAP手法取組の概要

平成17年からGAP手法導入を検討し始め、平成20年7月28日にJGAP認証を取得。除草剤・土壌消毒剤を一切使用しない生産を実施。

認証品目
レタス、キャベツ、サニーレタス、リーフレタス、ハクサイ

OGAP手法導入に関し、工夫した点等

GAP手法の考え方をまず十分に理解することが必要と考え、従業員や契約生産者を集め、頻繁に勉強会を実施するなど周知の徹底。

OGAP手法導入によるプラスの効果等

- ・ 農産物の安全性に対する従業員の意識が向上した。
- ・ 従業員の危険な作業に対する認識が向上した。
- ・ 消費者、小売業者からの信頼性が高まった。
- ・ 異物混入などクレーム処理がスムーズとなった。

